

はらぺこ あおむし



天声人語

『はらぺこあおむし』で知られる米国の絵本作家エリック・カールさんは、少年時代をナチス支配下のドイツで過ごした。ヒトラーや将軍たちに熱狂したのもつかの間、まちが空襲にさらされる。そんななかでも絵の授業だけは楽しみだった▼ある日先生の家で、こっそり複製絵画を見せてもらった。当時ドイツで退廃芸術の烙印を押されたピカソ、マチス、ブラックなどだ。「誰にも話してはいけない」と言われながら眺めた絵は、くらくらするほど衝撃的だったという▼カールさんの自伝を開くと、暗い時代でも点のような光が差し込んでいたのが分かる。疎開先で息子のように受け入れてくれた女性。ともに塹壕を掘った敵国の捕虜は食べ物を分けてくれた。そんな光をつなぎあわせた先に、楽しい絵本の数々があるのだろう▼世界中で愛された作家が91歳で亡くなった。色を塗った薄い紙を切って貼り、愛らしい生き物たちを生み出した。「おなかがぺこぺこ」のあおむしの物語は70以上の言語に翻訳された▼子どもに読み聞かせながら、こちらの心も洗われるような絵だった。お菓子などを食べ過ぎ、おなかがいなくて泣くあおむし。はっぱを食べて元気になるあおむし。本物の青虫も、やさしい目で見られるようになった気がする▼かつてカールさんが日本の子どもたちに発したメッセージがある。「忘れないでほしいのは、楽しむこと、遊ぶ時間をつくること、そして自分であること!」。もちろん大人にも響く言葉だ。

2021・5・31

朝日新聞 2021 年 5 月 31 日

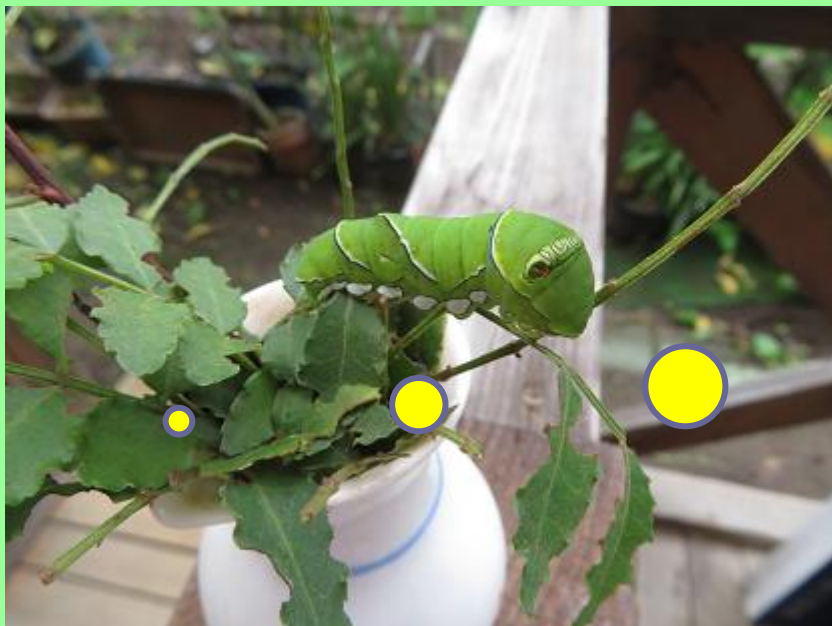




アゲハチョウ

花の蜜^{みつ}

アゲハチョウの成虫



あおむし

みかんの木の葉っぱ

アゲハチョウの幼虫



モンシロチョウの卵

↓ 孵化^{ふか} 幼虫になること



モンシロチョウの幼虫

↓ 蛹化^{ようか} さなぎになること



さなぎで冬をすごす

↓ 羽化^{うか} 成虫になること



モンシロチョウの成虫

↓ 産卵^{さんらん} 卵を産むこと ⇒ 一年に4~6回、変態^{へんたい}をくりかえす。

あおむし

キャベツの葉っぱ

モンシロチョウ

花の蜜^{みつ}